

導電性タイルエースミックSCT-R2

施工要領書



矢崎エネルギーシステム株式会社

導電性タイル エースミックSCT-R2 施工要領書

1. 適用範囲

本施工要領書は、エースミックSCT-R2をコンクリート下地に2液導電性エポキシ接着剤を用いて張付け施工する工法に適用します。

2. 仕様

1)エースミックSCT-R2施工床面の電気抵抗値

項目	性能	試験方法
2点間抵抗値(Ω)	1.0 × 10 ⁵ (公称値)	N.F.P.A.99
漏洩抵抗値(Ω)	2.5 × 10 ⁴ 以上	N.F.P.A.99

2)寸法・色調

項目	仕様			
厚み(mm)	2.0			
サイズ(mm)	304.8×304.8			
色調	ライトグリーン	ライトグレー	ホワイトグレー	ベージュ

3. 施工に使用する材料

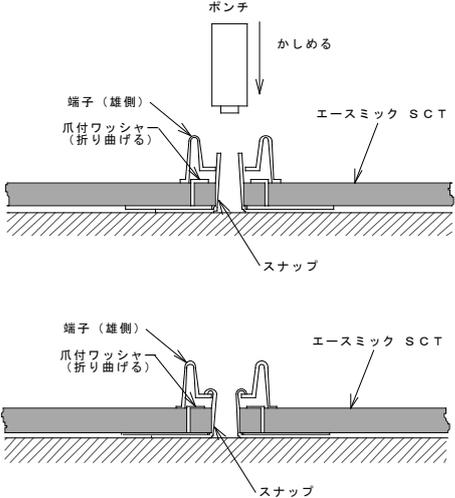
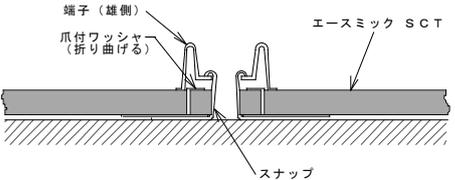
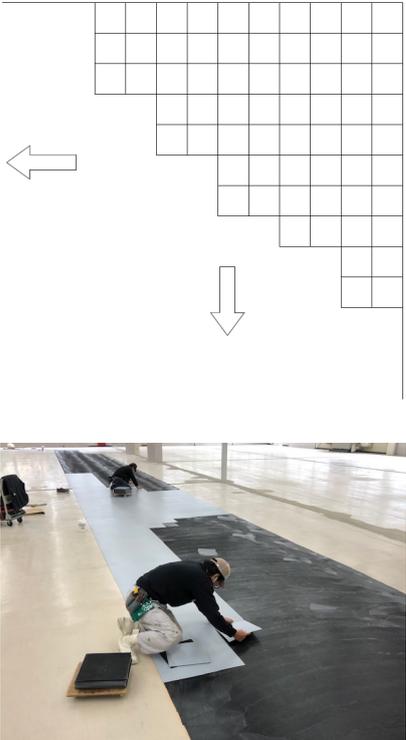
- 1)エースミックSCT-R2
- 2)2液導電性エポキシ接着剤
(エポキシ接着剤+カーボンペースト)
- 3)導電性ワックス
- 4)アースコード、端子

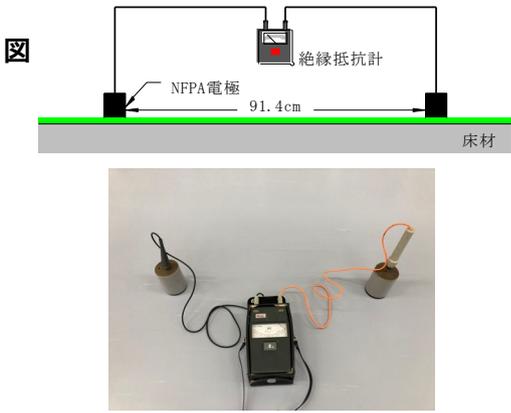
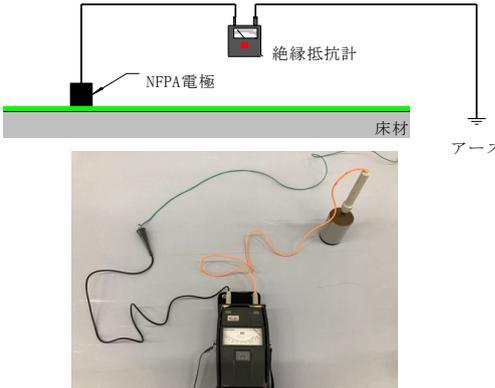
4. 施工手順

施工手順は、施工の注意点も含め次ページ以下に施工手順書を示します。。

エースミックSCT-R2 標準施工要領書

手順	施工要領説明	説明図
<p>1.</p> <p>1-1</p> <p>1-2</p> <p>1-3</p>	<p>下地調整</p> <p>下地水分率の測定 高周波水分計で水分率10%以下であることを確認する。</p> <p>下地の調整(不陸調整) 床下地の平滑性は施工後の仕上がりの優劣を左右する非常に重要な要素であり接着力にも大きな影響を及ぼすため、下地コンクリート・モルタルに不陸がある場合、凹部は左官ごてで硬練り下地補修用材を充填し、凸部はサンダー掛け等を行い床全面を平滑に仕上げてください。</p> <p>下地の清掃 下地の不陸調整後、モルタルのカス・チリ・ホコリ等を吸引力の強い電気掃除機で掃除するか、湿らせたおがくずを撒き箒で掃取ります。また、下地に油分がしみ込んでいる場合には溶剤等により除去してください。</p>	<p>説明図</p> 
<p>2.</p> <p>2-1</p> <p>2-2</p>	<p>エースミックSCT-R2タイルの墨出し</p> <p>墨出しの場所は、施工部分の大きさ・タイル張り付けの進行方向により適宜に選択するが、一般的には施工範囲の中心に墨出しを行ってください。</p> <p>出柱、中央柱、変形柱、隣接柱、通路との目地合せなどがあるときは、小さな切込みが入らないように注意し基準線を移動させてください。</p>	
<p>3.</p> <p>3-1</p> <p>3-2</p> <p>3-3</p> <p>3-4</p>	<p>接着剤の塗布</p> <p>使用接着剤 2液エポキシ接着剤にカーボンペストを混入して使用します。</p> <p>各液の混合攪拌 主剤Aと硬化剤Bをそれぞれ別々に、攪拌機を使用して十分に混合攪拌します。(内容物が沈殿しやすい性質があります。)</p> <p>主剤Aとカーボンペスト混合攪拌 主剤Aと指定量のカーボンペストを攪拌機で十分に攪拌します。</p> <p>2液の混合 主剤Aと硬化剤Bが1:1の割合になる量を攪拌容器に取り分け攪拌機を用いて、A剤+カーボンペスト、B剤が均一に混ざり合うまで攪拌します。また、1回に混合する量は1時間以内に使い切る量にします。(混合後1時間経過すると硬化が進み使用できなくなります。)</p>	  

手順	施工要領説明	説明図
3-5	<p>接着剤の塗布</p> <p>添付のクシゴテ等で基準線に沿った貼付け工区から、接着剤を塗布していきます。このとき接着剤は墨線いっぱいまで はみ出さずに塗布してください。一回に塗布する面積は人数、貼 りスピード等によって異なりますが、塗布後1時間以内に エースミックSCT-R2の貼付けができローラー掛けまで 約2時間以内に完了できる面積とします。 接着剤塗布後1時間以上経過すると接着剤の硬化が進み、 エースミックSCT-R2の張り付けができなくなります。</p>	
3-6	<p>オープンタイム</p> <p>2液型エポキシ接着剤は塗布後暫く時間をおかないと粘着力が 出ません。したがって、塗布した後暫く放置し塗布された 接着剤に指を押しつけて引きはがしたときに接着剤が少し 糸を引くくらいの粘りが出るまでオープンタイムをとります。 (オープンタイムは、施工時の温度、湿度、風の通り等によ って変わりますが、10分から、20分程度が目安となります。)</p>	
3-7	<p>アース端子の取付</p> <p>アース端子は、エースミック床材とアースをアースコードで 確実に接続するための端子である。アース近くのタイル部分 に端子を取り付けてからタイルを貼付けます。</p>	
4.	<p>エースミックSCT-R2タイルの貼付け</p> <p>貼付け</p> <p>接着剤の粘着力が向上した事を確認した後エースミックSCT- R2の貼付けを開始します。 タイルを基準線に沿って貼りだし、目通り良く、目違い、目地の ずれの無いように貼り広げます。広げていくときに、既に貼り 終えたタイルにあまり押し付けずに、置いておく感じのすき間 貼りの要領で貼ってください。 タイルが室温よりも低いうちに貼ると施工完了後目地部が 突き上がる場合があります。ご注意ください。 第一列目を適当な長さに張り終えてから、第二列第三列、 と貼っていきます。貼り始めは、接着剤がまだ柔らかいので 目地からはみ出す事がありますので、作業中タイルの目地 には乗らないように注意してください。 ※エースミックSCT-R2の寸法を安定させ目地ズレを防ぐため、タ イルは前日までに現場へ搬入し現場の温度に馴染ませてくださ い。また、施工時の直射日光を避けてください。</p>	

手順	施工要領説明	説明図
5. 5-1 5-2	貼り付け仕上 タイル清掃 目地からはみ出した接着剤はアルコールを浸した布でできるだけ早く拭き取ります。 ローラー掛け タイル貼付け開始後30分経過してから30～40kgのローラーで縦横まんべんなくローラー掛けを行います。また、ローラー掛けの回数が多いほど密着が良くきれいな仕上がりとなります。	
6.	ワックス掛け エースミックSAS-R2の優れた性能を長期間維持し、清潔に保つため、帯電防止効果をもつ樹脂ワックスを塗布します。モップにワックスを含浸させ施工エリア方向を1往復で塗布してください。この場合、塗布しながらシート面に塗布ムラがない事を確認しながら進めます。 ※ワックスは重ね塗りをするとエースミックSAS-R2の導電性能を損なう可能性がありますので、1回塗りを推奨いたします。	
7. 7-1 7-2	タイル施工床面の抵抗値の測定 施工後のエースミックSCT-R2床面上の2点間抵抗値、及び接地抵抗値をNFPA規格に準拠して測定し、規定の電気性能に適合している事を確認してください。 ・2点間抵抗値： $2.5 \times 10^4 \Omega$ 以上、 $1.0 \times 10^6 \Omega$ 未満 ・接地抵抗値： $2.5 \times 10^4 \Omega$ 以上 2点間抵抗値の測定 施工したエースミックSCT-R2床面上に2つの電極を3フィート(91cm)離して置き、直流500vを印加したときの抵抗値を1フロア当たり5点以上測定し平均値を算出します。 接地抵抗値の測定 接地極と、接地極から3フィート(91cm)以上離れたエースミックSCT-R2上に置いた電極との間に直流500vを印加したときの抵抗値を1フロア当たり5点以上測定し平均値を算出します。	2点間抵抗測定 図  接地抵抗測定図 

手順	施工要領説明	説明図
8.	<p>注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 冬季は、室温を十分に上げる。低温ではタイルが硬かったり、接着剤の硬化不足により目違いなどの不具合が発生しやすくなるため、室温を出来るだけ上げることが必要となります。また5℃未満では作業を行わないください。空調が利用できない場合には、ジェットヒーター等を利用して室温を上げてください。 2) タイルの反り防止のため、冷暖房による急激な温度変化を避けてください。 3) 突き上げ、接着不良を防ぐため、ローラーで十分に圧着してください。 4) 接着剤のはみ出しは、メタノールで速やかに除去してください。 5) 施工完了後、関連業者などの土足による床面の汚染・傷を防ぐため、土足を禁じ、歩行量の多い場所には養生シートなどで養生してください。 	